

令和4年度 病害虫防除技術情報 第8号

令和5年3月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

春期におけるイチゴの病害対策について

2月に入ってから灰色かび病の発生が多く確認されています。向こう1ヵ月の気象予報（2月23日福岡管区気象台発表）によれば、本病の発生に好適な曇雨天は少ない模様ですが、ハウス内で日陰になりやすい部分や、梁下やハウスの四隅など結露が溜まりやすく湿度が上昇しやすい部分からの被害拡大が懸念されます。また、うどんこ病に関しても、発生圃場率および発病葉率ともに平年より高い状況が確認されており、向こう1ヵ月の気象予報から、被害拡大の懸念があります。

圃場内の観察を徹底し、早期発見および防除に努めてください。

【作物】イチゴ

【病害虫】灰色かび病、うどんこ病

1. イチゴにおける灰色かび病の発生状況

2月14～17日の巡回調査では、発生圃場率、発病葉率、発病果率は平年より高かった。

発生圃場率：50.0%（平年：29.6%、前年：10.0%）

平均発病葉率：1.3%（平年：0.8%、前年：0.4%）

平均発病果率：2.1%（平年：0.3%、前年：1.5%）

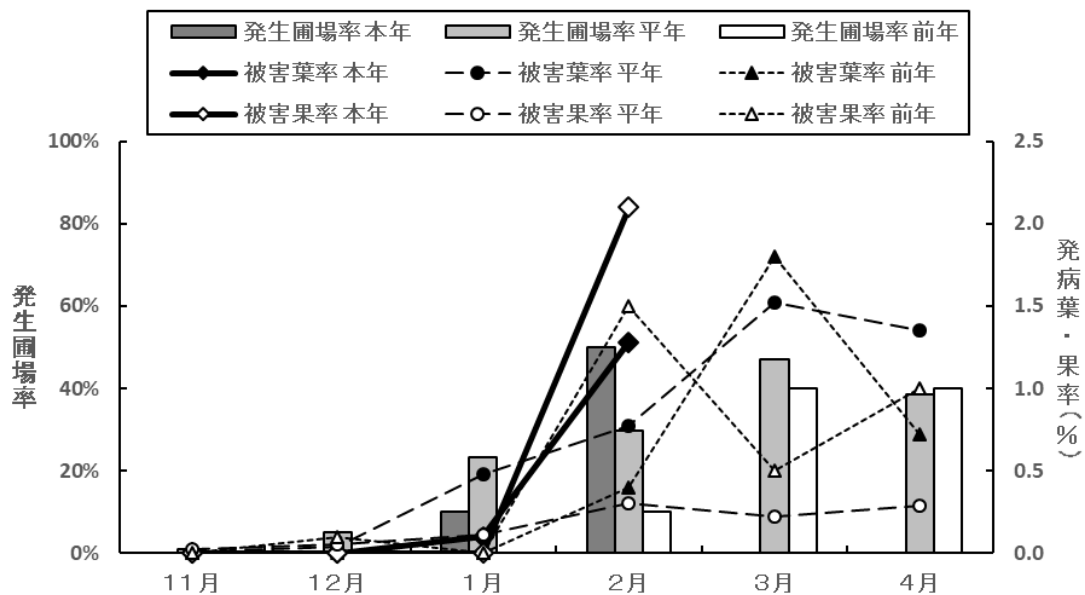


図1 発生予察巡回調査におけるイチゴ灰色かび病の発生推移

2. イチゴにおけるうどんこ病の発生状況

2月14～17日の巡回調査では、発生圃場率、発病葉率はともに平年より高く、発病果率は平年より低かった。

発生圃場率：30.0%（平年：6.2%、前年：0%）

平均発病葉率：0.3%（平年：0.1%、前年：0%）

平均発病果率：0%（平年：0.1%、前年：0%）

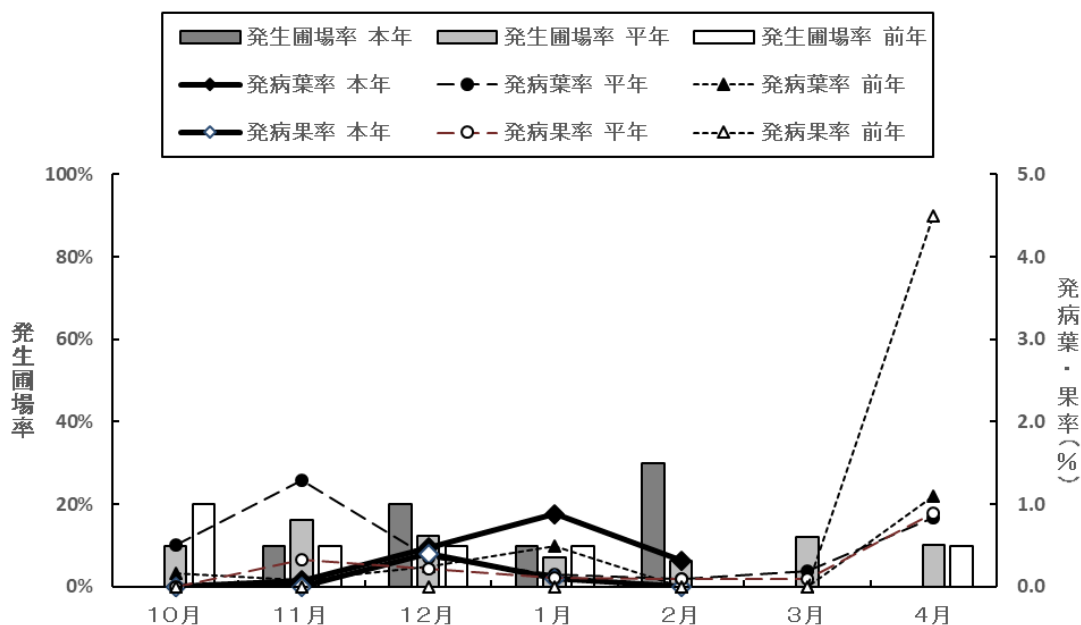


図2 発生予察巡回調査におけるイチゴうどんこ病の発生推移

3. 防除上の注意事項

- ア ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行う。
- イ 灰色かび病は多湿条件で発病が助長されるので、換気等を行いハウス内の過湿防止に努める。うどんこ病は草勢の低下により発病が助長され、乾燥条件で被害が拡大しやすいので、適切な肥培および灌水管理に努める。
- ウ 薬剤散布時には天候に留意し、薬剤散布後の施設内が速やかに乾燥するように注意する。曇雨天時は水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用すると効果的である。
- エ 同一系統薬剤を連続使用すると、薬剤耐性菌を生じやすいので、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。
- オ 灰色かび病は感受性検定の結果、アゾキシストロビン剤およびピラクロストロビン剤 (FRAC:11)、メパニピリム剤 (FRAC:9) は耐性菌率が高いため、少発生時の防除や予防目的での使用に留める。また、うどんこ病では EBI 剤 (FRAC:3) やストロビルリン系 (FRAC:11) 薬剤を連用すると耐性菌を生じる場合がある。

カ 防除に使用する薬剤は、以下の表を参考に容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

なお、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)は、来年度初頭に公開する予定です。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



表 灰色かび病およびうどんこ病に登録のある薬剤の一例

FRAC	一般名	灰色かび病登録	うどんこ病登録
2	イプロジオンくん煙剤	●	
3	シメコナゾール水和剤		●
3, U06	シフルフェナミド・ トリフルミゾール顆粒水和剤		●
3, U13	フルチアニル・ メパニピリムフロアブル	●	●
7	ピラジフルミドフロアブル	●	●
11, 7	ピラクロストロビン・ ボスカリド水和剤	●	●
11	ピリベンカルブ顆粒水和剤	●	
11, M07	イミノクダジシアルベシル酸塩・ ピリベンカルブ顆粒水和剤	●	●
12	フルジオキソニルフロアブル	●	
17, 12	フェンヘキサミド・ フルジオキソニル顆粒水和剤	●	
BM02	バチルス ズブチリス水和剤	●	●